

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 11 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103940		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ 亀山		
所在地	〒731-0231 広島市安佐北区亀山五丁目9番13号 (電話) 082-819-3255		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470103940&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で1人1人が役割を持つことで、生きがいを感じてもらえるように支援していること。それぞれの能力や状態に応じて自立支援を行うことで、できることを増やし能力を高めること、また心身機能を維持できるように取り組んでいること。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ひなたぼっこ亀山は、(株)ひょうまが運営するグループホームの1つとして、平成16年に開設された事業所で、母体の事業所の理念に沿ってホーム独自の行動目標を定め、全職員が目標達成に向け努力されている。特に入居者一人ひとりが生きがいを感じて暮らせる支援に力をいれており、入居者の「募金に行こうや」の一声で募金会場に出かけたり、「折鶴を折って平和公園に届けよう」の声に耳を傾ける等、入居者の自立支援に柔軟に対応出来る体制が構築されている。また、地域に密着したグループホームを目指し、自治会のメンバーとして、町内会からの提案・アドバイスなどもあり、地域の公民館、小・中学校、子ども会及びボランティア、地区内のグループホーム等との交流も積極的であり、地域との関係が非常に良好に感じられた。さらに、職員のチームワークも良く、日々の中で何でも話し合える環境が作られている。
--

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を掲げ、定期的確認を行い、いつも念頭に置きながら実践できるように取り組んでいる。	ひなたぼっこの理念を基に、具体的な行動目標を掲げ、その実現に向けて全職員で取り組んでおり、出勤時や定期的なミーティング等で理念の確認と意見の統一を図り、日々のケアの実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域・小学校の行事や近隣のグループホームとの交流、自治会への加入、また、日常的な買物や散歩を行い、挨拶等行っている。	自治会にも加入され、運動会や祭り、清掃等多くの行事に積極的に参加している。また、地区でのグループホームとの交流、職場体験での中学生の受け入れも行う等、地域の方々との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザー資格を持っているスタッフがおり、地域包括支援センターの手伝いをしている。また、地域の方が来られた時などに、認知症に対する理解や相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通して、取り組みなどの報告、話し合いを行い、サービスの実践につなげられるように努めている。	運営推進会議は定期的開催され、地域代表、地域包括、行政担当者、家族等が参加され、率直な意見・要望を得ながら日々のサービスの向上に活かしている。今後は、幅広い地域の方々のお出向も頂くなどし、一層有意義な会議になる事を期待したい。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的にはないが、ホームの状況などの説明を行い、連携を取るようになっている。	行政担当者の運営推進会議への出席もあり、日頃から連携も出来ており、情報の提供やアドバイスも頂くなど協力関係が出来ている。	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を行うことで、具体的な行為を含め身体拘束防止について理解し、職員間で共通意識を持ち取り組んでいる。また、できるだけ外出してもらえよう支援を行っている。</p>	<p>身体拘束・虐待防止については、事業所内部・外部の研修を通じ、禁止の対象とされる具体的な行為など職員は正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>常に意識し、職員会議などで勉強会を行い、細心の注意、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員会議などにて勉強会を行い学んでいる。必要性について話し合うことあり。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>不安などを聞き、十分な説明を行い、理解、納得していただけるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議への参加を募ったり、来所時や電話にて意見等聞けるよう努め、反映させている。</p>	<p>日頃から入居者が何でも話せるような関係作りを全職員で心がけており、ご家族の来訪時に十分時間を取り、意見・要望を聴いている。また、毎月の便りや電話等でも聴くようにし、出された意見・要望は毎月のミーティングなどで話し合い運営の改善に反映させている。</p>	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや職員会議、また時間のある時に話を聞く機会を持ち、反映させている。	定例の職員会議や日々の申し送り時に、職員の意見や提案を聞くようにし、それらを運営に反映させている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、個人面談で問いかけたり、聞き出したりする等工夫がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている 職員の資格取得を支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行うよう指示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換、勉強会等へ参加できるよう、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配ごとなど考慮しながら、信頼関係を築くようにしている。 また、家族の思いについても考慮している。		

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の希望や不安など、十分な時間を取りいつでも話せる機会を設け、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の必要としている部分を考慮し、必要時には他のサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段の生活の中で、入居者に教えてもらうことも多く、本人の特徴を活かしながら、支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換、また相談などすることで、関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的な墓参りや、昔からの友人、近所との交流などで支援している。	地域に暮らす馴染みの友人・知人に会いに行ったり、訪問してもらったり、繋がりを継続できる支援をしている。また、家族の協力なども頂きながら、定期的な墓参りなど可能な限り支援に努めている。	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の人間関係に配慮し孤立しないよう、食事作りや作品作り、外出などを通じて支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期的には少ないが、定期的なお見舞いや、家族が来所されるなど一定期間の継続的な関わりを行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意見にできるだけ添えるように努めている。困難な方は、家族に相談するなどして対応している。	職員一人ひとりが、入居者との日々の繋がりの中で意向の把握に努めており、困難な場合は、家族からの情報を得ながら本人本位の介護に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴など、家族に確認を行い、記録に残すなど状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者それぞれの状態、状況を常に意識し、確認、把握に努めている。		

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会議や本人の希望、家族との相談、関係者の意見を基に作成を行っている。	入居者の視点にたつて、地域でその人らしく暮らし続けるために、家族や関係者と本人本位で話し合い、気づき、意見等を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者ごとの個別記録に、気付きや本人の主張など記入し職員間で共有している。また、それに基づき意見交換や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ホーム内でボランティアの方によるレクや催し物など、外部の方に参加していただける機会を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣のグループホームとの交流やボランティアの協力依頼、中学校の職場体験、また、子供会、消防などと協働できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続できるように支援をし、受診時に必要な相談をしたり、指導を受けられるようにしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時に、医師への相談・指導がスムーズに受けられるよう、事前に家族とも連携する等工夫がされている。また、必要に応じて、受診の付き添いや家族への同行等、適切な医療が受けられるように支援している。	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員として看護師を配置、週2日出勤時、健康管理等の支援を行い、また、状態などを報告し受診などにつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースは少ないが、入院前、入退院時に医療関係者との情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合を想定し、家族に早い段階から話し合いを行っている。その意見を元に、主治医や看護師、職員と今後の対策について決定するようにしている。	入居者や家族の意向を踏まえ、希望する最期が迎えられるように、協力医・看護師・職員と共にチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルがあり、対応の仕方を定期的に学び実践につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回以上、避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署より指導を受けている。また、避難訓練などに地域の方にも出席してもらうようにしている。	定期的に避難防災訓練を地域の方々の参加・協力も頂き、実施されている。3月末を目途にスプリンクラーの設置を行う等防災意識は高い。今後更に運営推進会議等を通じ、夜間における避難体制の確立と夜間マニュアルの作成を期待する。	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーを配慮した声かけや対応などを行っている。また、記録などの確認をし、定期的に指導を行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない事の徹底と日常的な確認が、事業所全体で取り組まれている。援助が必要な時もさりげないケアや、一人一人のペースに合わせた対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれの状態や能力に応じ、可能な限り自己決定の支援を行っている。また、意思表示が困難な方は、表情などを細かく観察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望に応じて、無理のないよう買物や散歩、ドライブなどをできる限り行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪や髪染めを、本人の希望に合わせて、馴染みの店で行っている。また、おしゃれ着を着たり、お化粧される方の支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を入居者と一緒に考えることがあり、買物や調理、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。また、行事時には工夫を凝らした料理を出し、楽しんでもらっている。	入居者の希望を聴き食事に反映させたり、入居者と一緒に献立を考えたりしている。また、食材の購入、食事作り、盛り付け、後片付けも入居者と共に行う等一人ひとりの好みや力を活かしながら、そして、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう工夫がされている。	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養を考え、しっかり摂取できるよう献立を決めている。また、食事や水分摂取量の確認を行い、不足している場合は、本人の嗜好に合わせ代わりのもので摂ってもらっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの介助、声かけを行い、週1回入れ歯の消毒も実施している。また、必要に応じて訪問歯科の指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の状態や状況に応じて、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行っている。</p>	<p>入居者一人ひとりの排泄パターンを全職員が理解し、支援を行っている。また、情報を共有し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防のため、水分や乳製品、繊維質の摂取を献立に取り入れている。また、歩行運動や腹部マッサージを実施している。便秘気味の方には、排便確認表で管理を行い、服薬等で調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>希望する回数や時間など、体制の可能な限り対応できるようにしている。</p>	<p>基本的には、入浴日は決まっているが、入居者一人ひとりの希望に応じており、毎日入浴されている入居者もおられる。</p>	

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	居室の環境整備、室温管理を行 い、足浴の実施や、日中の活動 量を増やすなどの工夫をしてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬ファイルがあり、変更、服 薬時など確認を行っている。状 態も常に把握し、不明な点な どあれば、主治医や薬剤師に 相談、また指導を受けるよう にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	食事作りや畑仕事、手芸、作 品作り、習字、そろばんなど、 それぞれの得意分野を見つけ、 役割を持って行えるよう支援 している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	できるだけ本人の希望に応じ、 買物や散歩、ドライブ等と出掛 けるようにしている。また、入 居者の状況に合わせて、家族 の協力の下に行っている。	季節的な行事や、日常的なミニ ドライブでの買い物、外食及び 近隣への散歩等外出支援が 出来ている。また、「今日はみ んなで募金に行こうや」の入 居者の一声で会場に出かけたり 、折鶴を折って平和公園に届 けたり、入居者の状況に合わ せた支援が出来ている。季節 によっては、家族と一緒に外 出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	本人の状況に合わせて金銭所 持してもらい、欲しいものや 必要なものなどを買物時 などに、使えるように支援 している。		

ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に合わせて、定期的に電話されたり、手紙を出すなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や飾りつけ、展示物、模様替えなど、入居者と一緒に工夫し行うことで、居心地のいい空間を作っている。	入居者と職員で作ったフロアの飾りつけや模様替え、作品展示等、生活感・季節感に配慮した、居心地よく過ごせる共用空間作りに努めている。また、入居者がくつろぎ、井戸端会議などが出来るように、椅子を設置する等工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室や廊下、中庭などにスペースを設け、くつろげる居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の協力のもと、今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具や食器など持参されている。また、本人の好みの装飾品などを置き工夫している。	家庭から使い慣れたものや、好みの装飾品等を持参して頂き、本人が前から大切にしていたものに囲まれ、居心地よく過ごせるような居室作りの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の状態に合わせた椅子やテーブル、手すりなどを設置している。また、それぞれの状態などに応じて、目印などを用意し対応している。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの意義、重要性を理解し、事業所独自の理念を作成し玄関に掲示している。職員は出勤の時に確認し日々のケアに活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会にも加入し、地域の学校の運動会やお祭りに参加している。日々の買い物や散歩の時に近隣の方とお話している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では取組み等を報告している。参加者が自由に意見が言えるような雰囲気作りを心がけている。また、運営推進会議で出た意見は職員会議で報告しサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	季刊誌を作成し、定期的を送付している。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員会議の時に勉強会を行ない日々のケアに活かしている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修会に参加している。年2回「ひなたぼっこ虐待防止チェックシート」を全職員が行い職員会議の時に話し合いの機会を持っている。また、職員会議の時に定期的に勉強会を行い防止に努めている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	機会があるごとに職員へ説明を行なっている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	十分な時間をとり詳しく説明を行ない家族の同意を得るようにしている。何でも聞いていただける様な関係作りを心がけている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	利用者には何でも話せるような関係作りを心がけている。家族には面会の時に報告し家族の意見や要望を確認している。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議で意見を聞くようにしている。必要があれば会議以外でも意見を求めるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている 職員の資格取得を支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行うよう指示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換、勉強会等へ参加できるよう、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談の時間を十分にとり、利用者の不安軽減、信頼関係ができるように努めている。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	十分に時間をとり、家族の希望などを聞くようにしている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	状況等を十分に確認し必要であれば他のサービスを紹介するようにしている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	日頃から利用者に教えてもらう場面を作るようにしている。利用者の気持ちに配慮したケアを行なっている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	家族関係が維持できるように、面会時には日頃の様子を伝え情報を共有するようにしている。また、利用者が家族便りに家族への手紙を書き送付している。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	手紙を出されたり友人の面会がある。また、その関係が維持できるように訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う仲間同士が同じテーブルになるようにしている。時々トラブルはあるが職員が間に入り、いい関係が維持できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	定期的に面会に行っている。面会時に家族と会う事もあり、相談等にのる事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度、利用者の希望を聞くようにしている。また、表情や行動から利用者の気持ちをくみ取るように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面談で生活歴を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを把握している。職員は毎日の申し送りで確認している。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月一回の職員会議の時にケアカンファレンスを行なっている。家族、利用者に定期的に意見を聞き、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別ファイルに日々の様子を記録している。毎日申し送りを行い、職員は情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者、家族の希望や状況に応じて柔軟な対応を心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域包括センターや近隣の農協やクボタ農機の協力を得ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は家族と相談し決めている。受診時は家族へ報告している。</p>		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師を配置している。利用者の健康状態や状況に応じた支援を行なっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には医師や看護師に詳しい情報を提供している。また、なるべく多く面会に行き利用者の不安軽減に努めている。退院時にも詳しい情報を得るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>主治医、家族と話し合いを十分に持ち、その都度方針を決めている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルに基づいた勉強会や訓練を定期的に行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルに基づいた勉強会や訓練を定期的に行なっている。</p>		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	職員会議の時に勉強会を行なっている。声掛けやケアにも配慮しながらケアを行なっている。		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	日々の生活の中で希望を聞くようにしている。自己決定しやすいような声掛けを行なっている。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	利用者の生活リズムを優先している。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。</p>	利用者の希望に添ってパーマや毛染め、化粧ができるようにしている。毎朝、洋服を選ぶ時も利用者の希望を聞きながらケアを行なっている。		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	利用者と一緒に食事作りや盛り付けを行なっている。利用者が食べたい食事がある時はその日の食事に取り入れるようにしている。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	利用者一人ひとりの食事量、水分量を把握している。利用者の状態に合わせ食べやすいようにして提供している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	毎食後に口腔ケアを行なっている。義歯の管理も行っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、トイレでの排泄が保てるように支援している。		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	毎日排便の確認を行なっている。日々の食事や適度な運動を心がけている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	入浴が好きな利用者は毎日入浴されている。利用者の希望に添って行なっている。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	安眠できるように環境整備している。夜間眠が覚めても職員と一緒にテレビを観たり、希望があれば夜食を食べていただいたりしている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	職員は利用者の薬の内容を把握している。服薬確認は必ず行なっている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	食事作りや洗濯物たたみなどをしていただいている。気分転換でドライブに出掛けたりしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	買い物や散歩、ひなたぼっこを行なっている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	利用者はおこづかいをもっておられ希望があれば購入されている。		

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族へ電話をされたり手紙を書いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備を心がけている。利用者がくつろげるような家具の配置にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者がくつろげるような家具の配置にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は今まで使用していた馴染みの物なるべく持ってきていただくようにしている。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に応じた環境整備を行なっている。トイレなどの目印をつけている。利用者の状況が変化した時はそれに合わせて環境整備を行なっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・亀山①

作成日 平成 23 年 2 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の出席者や内容がいつも同じようになっており、変化に富んだ会議が行えていない。	民生委員や町内会長など幅広い地域の方に参加してもらい、有意義な会議を行えるようにする。	地域の方などに挨拶に行き、連携を取れるようにし、意見や要望などを活かした内容を取り入れる。	6ヶ月
2	35	夜間における避難訓練の確立ができていない。また、夜間用のマニュアルの作成ができていない。	マニュアルに沿った避難体制を全職員に周知し、行えるようにする。	会議などで話し合いね全ホーム共通のマニュアルの作成を本社にて作成する。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・亀山②

作成日 平成 23 年 2 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		他事業所との交流の機会はあるが、十分ではない。	他事業所との交流や勉強会の機会を増やし、サービスの質向上を図る。	職員が、定期的に他事業所へ訪問できるように調整を行う。	6ヶ月
2		基本的には利用者本意だが、職員の体制が取られず待っていただく事がある。	利用者に待っていただく事をさらになくし、自由に過ごせる事を支援していく。	利用者の動きに職員が合わせられるように体制を整える。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。